

CO₂をへらすていたんそしゃかい
低炭素社会このページでは CO₂ などの温室効果ガスの排出をへらす低炭素社会のすがたと、その社会をつくるために商社が取り組んでいる活動を学びます。ていたんそしゃかい
低炭素社会を歩く

商社の取り組み 低炭素社会を実現(じつげん)するために

○ クリーンなエネルギーによる発電

世界の国々では電気をつくるときに、そのほとんどを石油、石炭などの化石燃料(かせきねんりょう)を使用する火力発電所(かりよくはつでんしょ)で行っています。しかし、火力発電所はたくさんのCO₂を排出(はいしゅつ)することから、地球温暖化(おんだんか)を進める原因になっています。商社は、世界で増加しつづける電気の使用量に対応(たいおう)するため、CO₂の排出がない、あるいは少ないクリーンなエネルギーによる発電を世界中で進めています。



▶ 太陽光発電

▶ 風力発電

▶ 地熱発電

▶ バイオマス発電

▶ 燃料電池

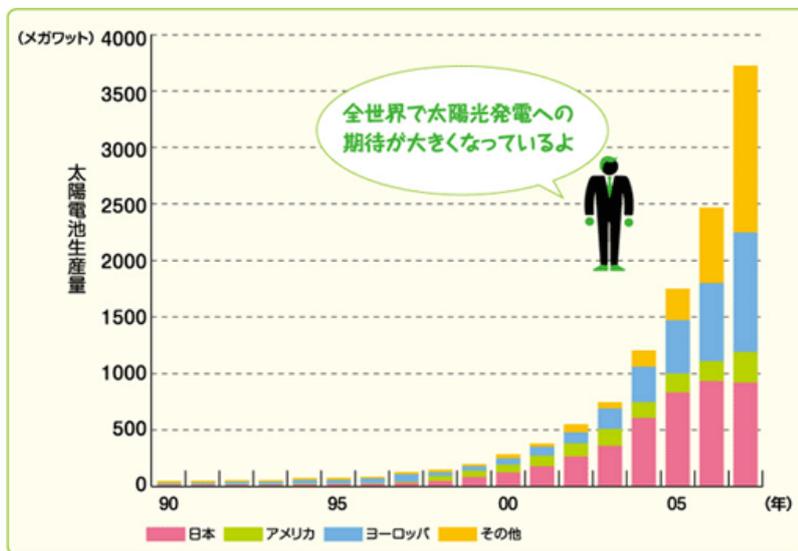
太陽光発電

全世界の電気を生み出せるほどの巨大エネルギー

太陽の光エネルギーを電気に変える「太陽電池」という装置(そうち)で発電します。太陽エネルギーはなくなる心配がほとんどなく、CO₂も排出(はいしゅつ)しません。また、エネルギー量は巨大で、たとえば、130km²という世界で4番目の大きさをほこるゴビ砂漠(さばく)全体に太陽電池をならべることができれば、地球上で必要なエネルギーのほとんどをつくり出せるといわれています。太陽光発電への期待(きたい)は高く、太陽電池の生産(せいさん)は世界中で伸びつづけています。



■ 世界の太陽電池の生産量(せいさんりょう)



(クリックで大きくなります)

※出典: PV NEWS 2008

夜でも行える、太陽を利用したもうひとつの発電

[太陽光発電](#)に似ていますが、光を電気に変えるのではなく、太陽の熱で液体を熱して水蒸気(すいじょうき)をつくり、発電機(はつでんき)をまわして電気をおこす「[太陽熱発電](#)」もあります。光と異(こと)なり熱は貯めておくことができるため、夜間でも発電できるメリットがあります。

商社が行っている「太陽光発電」

アジアの国々から、中東、オーストラリア、ニュージーランド、中南米、ヨーロッパ、アメリカまで、商社は世界中で太陽光エネルギーを利用した発電プロジェクトを進めています。

1年を通して晴れの日が多く、ふりそぐ太陽の光が多いスペインでは、地元の企業(きぎょう)と[太陽光発電](#)を開始し、[火力発電所](#)とくらべて年間に約7,200トンものCO₂削減(さくげん)をめざしています。また、太陽光を受けとめる[太陽電池](#)パネルについては、素材(そざい)の研究開発から生産(せいさん)までを行い、日差しの量や太陽が出ている時間といった、地域の特性(とくせい)にあった製品を提供(ていきょう)しています。

また、中東で2015年の完成をめざして進められている、必要なエネルギーをクリーンなエネルギーだけでつくる街「マスタートールシティ」の建設(けんせつ)では、日本の石油会社などと共同で大規模(だいきぼ)な[太陽熱発電](#)プロジェクトを進めています。

商社の取り組みによって、環境にやさしい太陽エネルギーの利用が世界で大きく伸びてきています。



太陽光発電設備(韓国)



太陽光発電設備(アメリカ)

▲ページの先頭へ